



【編集・発行/札幌くらぶ】 064-0931 札幌市中央区中島公園1-15 札幌交響楽団事務局気付  
 メール: info@sakkyoclub.net  
 ホームページ: http://sakkyoclub.net/sakkyoclub/

2012.7

59



# 平成24年度札幌くらぶ総会開催

## 開 会

5月26日(土)、総会は定刻を少し過ぎた午前12時5分から札幌コンサートホール2階大会議室において、出席者32名、委任状による出席者96名、計128名で開催されました。

総会は、村上事務局次長の開催宣言で始まり、上田会長の開会挨拶、小沢札幌専務理事のご来賓挨拶、札幌くらぶシンボルマークの公表、総会議長選出・挨拶、議案審議、役員改選・運営スタッフの指名などの議事を行った。

## 上田会長の開会あいさつ

札幌コンサートホールができ、札幌が大きく成長する、その過程を私たち札幌くらぶとして色々な意味でご支援をさせていただき、かつ、そのことが私たちの喜びになるという活動ができたと思うところでです。

昨年度は、第9回札幌くらぶコン



上田札幌くらぶ会長

サートを成功させるために一年中努力した年であったと思います。その成果がほぼ所期の目標を達成できたと思っており、会員の皆様のご協力に感謝申しあげると同時に、一緒に喜びたいと思っております。

札幌くらぶの歴史からいうと、札幌がすばらしいオーケストラであつてくれるということ、それと同じレベルで私たち市民のオーケストラであるということを通じて、音楽好きな、札幌を愛してくる、そして音楽文化というものを愛してくれる、そんな市民をたくさんつくる、ということが大事な仕事であり、私たち札幌くらぶのメンバーが団員の皆さんと親しくなるということを通じて、団員の皆さんが芸術文化活動と市民に対する様々なサービス、あるいは普通のおつき合いが可能になる、札幌で演奏しているということの意味、ひとり札幌が札幌ですばらしい演奏をしているということだけでなく、市民の中にいる札幌なんだという存在感を強めていくことが、札幌くらぶの役割と想っています。

今日は、札幌くらぶコンサートを含め、多くの総括をしなければならぬ事項が事務局から提案さ

れます。一緒にこれからの札幌くらぶをどうするかを含め、話し合っていたきたいと思います。

最後に、これまでも活躍いただいている西川吉武さんと鈴木美保さんが大病を患われ、闘病生活に頑張つて勝利され、今日姿を見せていただきました。心からお見舞い申しあげますとともに、これからも一緒に頑張りましょう、ということをお願いいたします。

## 小沢札幌専務理事のごあいさつ

昨年、札幌は50周年を迎えました。記念事業として実施したヨーロッパ公演ツアー、ペーターベントイクルスのCD発売、50年史発行など、多くの皆様の御支援で高い評価をいただきました。

51年目の今年は、大変厳しいスタートになっております。今年度の文化庁の予算は、当初の見込予算より約2,000万円減額されました。さらには、くんでんファミリーコンサートも約半減し、24年度予算は大きな収入不足に陥りました。そのため4月、5月は、事務局全体で経費の大幅な見直しと削減、そして御協賛いただける企業の新規開拓など懸命に努力して

おります。それでもまだ不足分を補い切れていないのが現状です。札幌は10年ほど前に非常に難しい問題を抱え、やっと立ち直って50周年を迎えることができました。今回、新たな厳しい局面を迎えて、51年目をスタートすることにいたしました。今、気持ちを前向きに切りかえ、足元を見つめ直してスタートすることになった、と私は思っております。具体的には、今まで企業へお伺いする、お願いするということ弱かった部分があると思っておりますので、今後組織的に強化し、御協賛、御支援いただける企業の新規開拓を積極的に取り組んでまいりたいと考えております。



小沢札幌専務理事

札幌くらぶは札幌ファミリーの一員だと思っております。そうした皆さんの御支援をいただきながら、札幌をより発展させるために私なりに頑張つてまいります。

どうか、これからも温かい御支援よろしく願います。

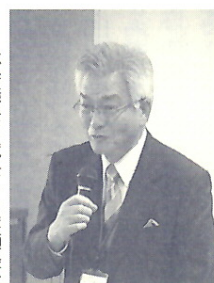
## シンボルマークの公表

4月1日から運用している札幌くらぶシンボルマークと3つのカラーパターン、デザインの説明、

使用方法を公表しました。

議長選任

議長の選任は、事務局推薦の鶴頭隆氏を選任して議案審議に入った。



総会議長に就任した鶴頭隆氏

## 第1号議案、第2号議案審議

第1号議案 平成23年度活動報告、第2号議案 平成23年度普通会計・特別会計決算及び会計監査報告を一括審議することとし、村上事務局次長が議案説明を行った。第9回札幌くらぶコンサートの説明について、武藤事務局次長から次のとおり補足説明を行った。

武藤事務局次長 第9回ではチケットの販売にスタッフは大変苦労していました。第10回を同じような方法での開催は難しい、スタッフで方法を検討しますが、皆様方か



進行を担当した武藤事務局次長と村上事務局次長



総会に出席した会員の皆さん

らもアイデアの提案をお願いしたい。例として、冠コンサートなどはどうだろうか。なんとか第10回開催に向けて会員、スタッフともに知恵を出しあっていき、検討したいので協力をお願いします。

その後、質疑に移ったが特になく、第1号議案、第2号議案は拍手で承認されました。

**第3号議案、第4号議案審議**

第3号議案 平成24年度活動計画案、第4号議案 平成24年度普通会計予算案を一括審議することとし、村上事務局次長の議案説明の後、質疑に移り、小山内好氏から会議室の使用について次のとおり質疑があったが、そのほか

特に質疑がなく、第3号議案、第4号議案は拍手で承認されました。小山内 好氏 交流会の開催に当たって、この会場(大会議室)は使用できなくなり、別の会場になる、とありますが、キタラと話し合った結果なのでしょうか。交流会費が上がるに参加したくとも、できなくなることもある。なんとか使用できる方法がないのですか。

武藤事務局長 これまで何度も断られてきており、その都度、今回は何とかとお願いして使用していただきました。会議室だから会議に使用することで、飲み食いに使用することができないというの、キタラの基本的な考えで、今後、交流会での使用は難しいと考え、他の場所で開催したいと提案しました。なお、会議室を使えるか、どうかは今後も話し合ってみたいと思っております。



小山内 好氏

小山内 好氏 今までご苦労頂いていることがわかりました。その苦労があって、私たちがこの場に來ることが出来る。ありがとうございます。

**役員改選、運営スタッフ指名**

第5号議案 札幌くらぶ役員改選、運営スタッフ指名について、事務局からの推薦により選任したいと提案、了承され、会長に上田文雄氏、副会長に鈴木美保氏、西川吉武氏、会計監査に岸田貴志氏、前田郁子氏が事務局から推薦され、議長より提案、選任されました。

会長就任あいさつ 9年前から仕事が変わり、札幌くらぶの仕事に専任することは難しく、運営会議の出席もままならず、多くの札幌くらぶの活動は副会長以下の運営スタッフにお任せの状況ですが、多くの市民がより札幌に親しんでいただく、そんなまちづくりの大きなテーマを私たちは担っている、多くの皆さんと一緒に仲間づくり、まちづくり、札幌の音づくり、札幌の存在感がこのまちの中核的部分になれるよう頑張っていきたいという気持ち、熱だけは持ち続けているつもりです。多くの皆さんの御意思を大事にできるようなりたいと思っております。

先ほどこの場所の使い方について御質問がありました。この建物を管理しているのが芸術文化財団で、私はその理事長という立場です。何か規定がないからできないという、これだけの理由であれば、規定をつくらばいい。みんなが使いやすいようにはどうしたらいいか、ということを考えるべきではないか、事務局のほうから札幌くらぶが騒いでいるけれど、

どうしたらいいだろうかかと相談があれば、私はそのように判断いたします。ここで毎日宴会をするわけではないし、宴会が主たる目的でもありません。まさに団員の方々がステージからおりてきて、すぐにファンと、そして支援する人たちと一緒に、今日の演奏はどうだったのか、どんな思いで聴いてくれたのか、そして私たちがどれだけ札幌の皆さん方に頑張ってもらいたいという気持ちを持って、立派な料理は必要ない、缶ビール一本で2時間、ここでビールナッツをかじりながらしゃべるといいところがいいと思っております。

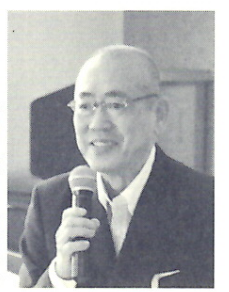
一つ一つの活動が、札幌の団員の皆さん方が札幌の市民のためのオーケストラなのだ、そして、札幌が技術的にも音楽的にもすばらしい実力を持っている楽団になつてもらうことを願うわけです。ぜひ早く事務局のほうから、札幌くらぶが納得してもらえないけど、どうしたらいいかという議論が私のように上がってくるようになるようにとお話させていただきました。

いま、ことあるごとに厳しく制限することがよいという風潮があります。政治の世界でも同じようなことがあります。ピシツと切ると好感度があがるか、変な

文化になりつつあることを憂いながら、何にも、ほんやりとしたところも必要です。そんな中でみんなが工夫をして、文化を育てていこうという活動にはもつとやさしく、だれにも参加しやすい場をつくっていくことが大事だと思っております。

ぜひとも皆様方のお力をちょうだいしたいということをお願いして就任のあいさつとさせていただきます。事務局スタッフの指名 会長から次のように指名されました。事務局長 武藤義典 事務局次長 深井雅昭、佐々木保、井上明子、村上均、定政みち子 普通会計担当 中居志津子 運営スタッフ 田山登代美、佐藤紀子、西川喜佐子、佐藤慶一、鎌田清美、青木美希、木村由華、村上佳子、横山章子、佐藤高明、有田宏、山本洋美、橋詰智善、榎本時也、上野文博、鷲頭隆

西川副会長の閉会あいさつ 昨年の札幌くらぶコンサートが開催される前の10月から約半年入院し、頭もすっかり生まれ変わって戻ってまいりました。私は札幌くらぶに入会して15年になり、いろいろな足跡を上田会長、スタッフの皆さん、そして会員の皆さんと残してきたという感じがします。その中でも意味があったと思う



西川 札幌くらぶ副会長

のは、一つは札幌くらぶコンサートです。札幌がまだ80回、90回という時代に、お互いにボランティアで、札幌の出演料も無料、何とか市民に広げていこうと始めたのが札幌くらぶコンサートです。そしてその中で大きな意味をつくったのは、昨年の第9回札幌くらぶコンサートです。これからリスナーになりうる音楽活動している中学生を招待したことです。札幌くらぶコンサートの第10回開催はおあずけになっていますが、今年度、音楽活動をしている中学生を札幌定期演奏会に毎回50名を招待する事業を協賛金を得てつなぐことができました。 もう一つは、2006.11、日本プロオーケストラファンクラブ協議会(JOFC)を札幌くらぶが全国に呼びかけて設立し、現在7団体が全国で手を握っています。あの忌まわしい三・一一のときに、仙台フィルが震災で演奏活動ができないなか、JOFCを通して全国から義援金が集まってきました。それも直接支援できるような仕組みを、きょう出席されている札幌元専務理事の西村さんと一

# 平成24年度 札幌くらぶ第1回交流会

## (写真集 & 参加者感想文)

### 札幌くらぶ交流会に参加して

第549回定期演奏会でベートーベンのミサ・ソレムニスの荘厳な響きに酔いしれた後、場所を変え交流会が行われました。

私は転勤族のため、昨年の4月から札幌の定期会員となり、4月の定期演奏会の際、札幌くらぶに加入、そのままキタラの会議室で行われた交流会に飛び入りで参加しました。

今年も札幌くらぶに入ったばかりの会員が飛び入りで参加してましたね。そんなアットホームな札幌くらぶです。

今年の交流会、近くのホテルに場所を変え行われました。

札幌からは演奏直後にもかかわらず、コンサートマスターの大平まゆみさん、ヴァイオリン首席の大森潤子さん、ヴィオラの物部憲一さん、小沢専務理事が参加されました。

上田会長の挨拶に始まり、札幌の方々からお話をいただき、普段の生活の中で音楽の話だけで時間が過ぎることはまずありません。

札幌くらぶは、札幌を応援するクラシック好きな人が集まるところだと感じました。

皆さん、これからも札幌を盛り上げていきましょう。

(榎本時也)



緒に話し合いながら進めることができました。J.O.F.Cの会員クラブは、全国のオーケストラを聴きながら、それぞれの地域でおらがまちのオーケストラを発展させようという運動になってきて、日本のすべてのプロオーケストラのファンクラブをもっと大きくして、プロオーケストラを活性化させようというところを目指しています。

札幌は、こんな大きい都市でプロのオーケストラが一つしかない。30万人、40万人の都市で、二つ三つ抱えている都市は世界中いくつもある。そういう都市が文化の香りが高いまち、しかも本当に文化度の高い市民が住んでいる。札幌がそういうまちであってほしい。そういう札幌をつくるには、音楽の分野で、私たち札幌くらぶが札幌と一緒に、手をつないで貢献していきたいと思っています。

今回、事務局から10回目の札幌くらぶコンサートをどうやって開催しようか、知恵を絞ろうとの提案や、札幌を振り返ってみるといふ札幌くらぶアカデミーの開講など、皆さんにご協力いただきながら進めていきたいと思えます。今後、ご支援をお願いして、閉会のあいさついたします。

閉会  
午後1時20分、少し早目に全ての審議を終えて、平成24年度札幌くらぶ総会は閉会し、出席者は札幌定期演奏会を聴くために大ホールに移動していただきました。  
(事務局 武藤義典)

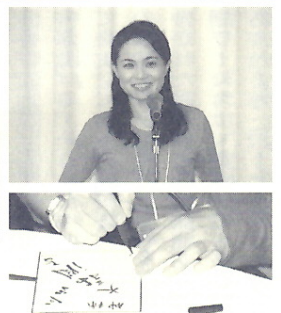
### 音楽と向き合える幸せ

圧巻というか、大変すばらしい演奏(第549定期)でした。チューニングが始まり気分が高揚しはじめてから約2時間、頭のなかをカラにして(既にカラッポかも)クライマックスへ、終演を迎え会場を出ても暫くは頭の中で、まさに音を楽しむに会場に来ています。

悪しを批評すると、音楽を、コンサートを、聴きに行こうと思う気持ちを萎縮させ、難しいとか堅苦しいとか思われるのではないだろうか。聴いた人が「良かった」と思えばそれでよいと思う。本番は唯一、まさに一度きりのもの、小さなミス？と思われることはほかでも何度か聴いています。それはそれで良いのです(断定してしまて良いのか...)。ミスしたところからやり直したなど聞いたことがありません。

最近気づいたが、プログラムの後の部分に鑑賞のエチケットが載っているのを見ますが、一つ気になることがあります。R、Lブロックの傾斜のきつい席では、座席に浅く掛けて乗り出すと、うしろの席の人から奏者や指揮者が見えなくなることも記してほしい。音が聴こえれば良い、というものではないと思う。じかに注意することは、気まずくなるのではないかと思う。気を付けてみるとこの様な人は少なからず居ります。開演前に放送で注意するなど検討してほしいと思います。

(案山子)



写真(上から)上田会長の挨拶と参加者、小沢専務の乾杯と参加者参加者、大平コンマス(右から)大森くさ首席とサイン、物部氏&演奏会宣伝、大平さんを囲んで(右から)大森さん、上田会長を囲んで、上田会長、定政さん、鷲頭さん、小沢専務と西川副会長

### 交流会に参加して

今回は、KITA ホテルでの交流会。約40名の参加者で、楽団からはコンマスの大平さん、ヴァイオリン首席の大森さん、ヴィオラの物部さんの参加がありました。大森さんは偶然私の隣に(運が良いですな!)、6年在籍で初めての参加とのことで皆さんがお話に来られ、私は隣で聞いてすごく勉強になりました。宴の途中では大平さんの誕生日祝を歌い、物部さんの古楽演奏会の案内、大森さんの今回の定期演奏会のあれこれなどのお話があり盛会のうちに終了となりました。プロの方のお話は今回で3回目ですが、何時も楽しみにしています。  
(Hide)

# 8月〜10月の定期・名曲シリーズ 演奏会を楽しく聴くために

八木 幸 三(札幌くらぶ会員)

## 第551回札幌定期演奏会

8月10日(金) A日程 19:00

8月11日(土) B日程 15:00

札幌コンサートホール Kitara  
大ホール

指揮/尾高 忠明(音楽監督)  
コントラバス/文屋 充徳  
ヴァイオリン/豊嶋 泰嗣



尾高 忠明 (©Martin Richardson)



文屋 充徳



豊嶋 泰嗣 (©大窪道治)

### ■ポツテシーニ/グラン・デュオ

・コンチエルト

いつもオーケストラの土台となつているコントラバスが、独奏楽器として活躍する場面には、なかなかお目にかかれない。「コントラバスのバガニー」と呼ばれたポツテシーニが、ミラノ音楽院生だった時に2台のコントラバスのためのコンチエルトとしてつくり、その後カミロシヴォリの協力でヴァイオリンとコントラバスの二重奏に作り直されたのがこの曲だ。長い単一楽章からなり、ふたりの独奏者が丁々発止の華々しいアンサンブルを聞かす。コントラバスのあたたかな音色による叙情的な旋律や独奏ヴァイオリンの優美な旋律に超絶技巧の速いアルペジオを演奏するなど、この楽器の魅力がたっぷりと味わえる。今回、この曲を演奏する文屋充徳は、札幌チェリスト文屋治実の実兄で、筆者は以前に彼らの名演に触れているが、コントラバスの超絶技巧に言葉が出ないほど感銘した記憶がある。

### ■マラー/交響曲第5番

マラー交響曲の中でも非常に人気があるこの曲は、やはり映画

「ベニスに死す」でもお馴染みになった第4楽章のアダージェット

の耽美な旋律があるからだろうか。この楽章は、マラーが妻となるアルマへの愛の告白だと言われているが、確かにこの旋律で口説かれれば、どんな女性も心を奪われるだろう。第5番は、その後にくく6・7番とひとつのグループをなすと言われている。それは、いずれも1901年からの5年間で作曲され、声楽を用いない純器楽曲であり、主題の扱い方や構成が古典的なものに近づいているという点で共通性があるからだ。

そして、バッハを熟読し対位法的手法を積極的に取り入れながらマラー音楽の特質とも言える憂愁な旋律や神秘的な色彩を放つオーケストレーションが、マラー・ファンならずとも、たまらない魅力を人々に与えてくれる。冒頭「葬送行進曲」のトランペット独奏によるファンファーレは、聴く側もつい緊張してしまう。メンデルスゾーン「結婚行進曲」のモチーフを引用したとも言われるが、「結婚は墓場なり」と言うことを作曲者は、暗示したのであろうか。

## 第552回札幌定期演奏会

9月14日(金) A日程 19:00

9月15日(土) B日程 15:00

札幌コンサートホール Kitara  
大ホール

指揮/小泉 和裕  
ヴァイオリン/郷古 廉



小泉 和裕



郷古 廉

### ■ブラームス/ヴァイオリン協奏曲二長調

二十年あまりかけ、やっと書き上げた交響曲第一番の後、ブラームスは堰を切ったように交響曲第2番や「悲劇的序曲」などを次々に書き上げる。そうした作曲家として充実していた時期にサラサーテのヴァイオリン演奏に感銘を受けたのが、この名曲である。書かれたのが、この名曲である。ブラームスは、交響曲でもそうであったようにベートーヴェンのヴァ

イオリン協奏曲を大きな目標としていた。それは、ともに二長調で田園的、牧歌的おもむきが多分に感じられることでも言える。名ヴァイオリニスト、ヨアヒムの助言を受けながら叙情的なものと構成的なものを見事に総合させた作品として完成させた。はじめは4楽章形式だったものをヨアヒムの助言で中間のアダージェットとスケルツォ楽章を破棄し、現在の「弱々しいアダージェット」に書き換えられている。それでも40分近くに及ぶ大作で第1楽章が全体の半分以上を占めている。全体的に男性的な力強さに満ち、特に第3楽章などは逞しい生命の息吹を感じさせるヴァイオリンのボーイングが堪能できる。

### ■チャイコフスキー/交響曲第5番 番短調

チャイコフスキー作品への好みは、聴き手によつてはつきり二分するのではない。その原因は、彼があまりに甘美な旋律に魅了される者として鼻につくという者だ。いずれにしても彼は、メロディーメーカーであることには間違いない。交響曲第4番を作曲した後11年目につくられた第5交響曲は、モツァルトの音楽への思慕が込められ、全曲を貫く「運命」の主題による循環形式をとっている。この作品の第2楽章でホルンが奏でる美しくも哀愁に満ちた旋律もまさにチャイコフスキー節そのもの

だ。この曲を完成した頃、作曲家自身が「あのなかにはイヤなものがあります。大げさに飾った色彩があります。人々が本能的に感じるこらえ物的な不誠実さがあります」とフォン・メック夫人に手紙で告げている。つくった本人がそこまで自分の作品をけなすこともめずらしいが、彼の交響曲の中でも人気が高いのはご承知の通り。初演時も批評家の評判は良くなかったが、一般聴衆は大喝采をおくった。筆者もこの「あま〜い」メロディーが大好きなひとりである。

### 森の響フレンドコンサート 札幌名曲シリーズ Vol.3 音楽が紡ぐ物語

「ドラマティック・オペラ」  
9月29日(土) 15:00

札幌コンサートホール Kitara  
大ホール  
指揮/飯守泰次郎



飯守 泰次郎

### ■ロッシーニ/歌劇「セヴィリアの理髪師」序曲

フランスの作家ボーマルシェの風刺劇をロッシニが24歳の時にオペラとして作曲した。物語はモーツァルト「フィガロの結婚」の前半にあたり、アルマヴィーヴァ伯爵とロジナの仲を取り持つ床屋で便利屋であるフィガロの活躍を描く。ロッシニは、このオペラを2週間で書き上げたといわれ、この序曲は前作「イギリス女王エリザベッタ」の序曲を転用したもののだが、彼らしい快活で劇的魅力に溢れている。

**■ビゼー／歌劇「カルメン」第1組曲**  
ご存じ魔性の女カルメンと彼女を愛しすぎてしまったドン・ホセの悲劇を描いたこのオペラは、作曲過程でその内容から劇場側とトラブルが続き難産の末完成された。しかし、型破りで画期的なこの作品は、その迫真のリアリズムが後のヴェリズモ・オペラに強い影響を与え、不滅の名作として万人に親しまれている。

**■マスネ／歌劇「タイス」よりタイスの瞑想曲**  
このオペラは、古代キリスト教の修道士が享楽の女性タイスを救おうとして改宗させながら、自身はかえってタイスの肉体の美しさに魅惑されて墮落していくという内容で、この第2幕に奏でられる「瞑想曲」はヴァイオリンのコンサートでもよく演奏される名曲である。

**■オッフェンバック／歌劇「ホフマン物語」よりホフマンの舟歌**  
オレッタの大家として知られるオッフェンバックは、本格的なオペラをつくらうとパリのオデオン座で初演された戯曲「ホフマンの幻想物語」をもとに3つの失恋物語からなるオムニバス形式で、この作品をつくった。

しかし、彼がこの作品を完成する直前に亡くなったため、唯一の本格的オペラ作品となってしまった。彼の死後、何人かの作曲家が手を加えたが、作品を上演した劇場が二度も大火災になりまだ決定稿がない。版によっては登場人物の設定が違うこともある。この「ホフマンの舟歌」は、第2幕冒頭ヴェネチアの運河で、娼婦ジュリエッタがホフマンの親友ニクラウスと歌う二重唱として有名だ。

**■マスカニ／歌劇「カヴァレリア・ア・ルスティカーナ」間奏曲**  
19世紀末、ワーグナーの楽劇に対する反動から現実主義（ヴェリズモ）が芽生え、庶民の日常的な人間臭い物語を題材に多くの作品が作られた。それらの作品中、レオンカヴァッロの「道化師」と並び最も成功したひとつがこのオペラだ。シチリアを舞台に繰り広げられる男女の愛情劇で後半に演奏されるこの間奏曲は特に有名である。

**■ヴェルディ／歌劇「運命の力」序曲**  
おもな登場人物が、全員死んでしまうことからあまりに死体が多すぎると評されたこの歌劇は、ロシア帝室歌劇場での初演が大成功だったもののヴェルディ自身は終幕の設定が気に入らず改訂版をつくった。この時にこの序曲が加えられている。この曲はヴェルディの序曲としては最もよく知られ、自由に劇中のテーマを駆使しながらドラマ全体の内容を暗示して、独立してコンサートで演奏されることも多い。

**■ベートーヴェン／序曲「レオノーレ」第3番**  
ベートーヴェンが完成させた唯一のオペラ「レオノーレ」は、作曲者が9年の歳月を費やし「人間解放」という高い理念を現出させた傑作だ。政治犯として捕らわれた夫を救出するため妻レオノーレが男装してフェデリオと名乗り監獄へ潜入、悪役ドン・ピツァアの犯罪をあばくという物語。まさに妻は強しだ。このオペラの序曲も4曲が作曲され、今回演奏される「レオノーレ」第3番は、1806年に二幕ものに改められた第二版でつくられた。

**■ウェーバー／歌劇「魔弾の射手」序曲**  
ボヘミアの森を舞台に怪奇的な雰囲気も漂わせるロマンティックオペラでワーグナーの楽劇にも大きな影響を与えた名作である。序曲は、4本のホルンが悠然とアダージョによる有名な旋律を吹奏し、劇中の主題が物語を凝縮するように現れ、

音楽的な統一性を感じさせる。**ワーグナー／歌劇「ローエングリン」第1幕への前奏曲**  
**楽劇「ニュルンベルグのマイスタージンガー」前奏曲**  
歌劇「ローエングリン」は、戯曲と音楽との関係を緊密にしながら、示導動機（ライト・モティーフ）の技法をさらに高め、ワーグナー独特の楽劇形式が充実された作品である。従来の序曲を無くし、幕ごとに前奏曲を入れたことも大きな特徴だ。この歌劇では、3曲の前奏曲が演奏されるが第1幕はグラールの聖域をあらわす純粋で荘厳なもの。

**第553回札幌定期演奏会**  
10月12日（金）A日程 19:00  
10月13日（土）B日程 15:00  
札幌コンサートホールKitara  
大ホール  
指揮／広上 淳一  
ピオラ／廣狩 亮（首席奏者）  
**■ベルリオーズ／「イタリアのハロルド」**／**ヴィオラ独奏付き交響曲**  
名ヴァイオリニスト、パガニーニは、ベルリオーズにヴィオラ独奏曲を書くことを求め1834年に完成された。

しかし、曲はパガニーニが願っていたようなヴィオラが派手に活躍する音楽ではなく、彼は失望したと言われている。バイロンの長編叙事詩「チャイルド・ハロルドの巡礼」から4つの場面が選ばれ、4楽章構成で作曲されている。ヴィオラの洪みのある音色が、主人公であるハロルドの夢幻者を表しているが、この主人公は作曲者自身であり、「幻想交響曲」同様自分自身を標題的に描いている。ベルリオーズは、よほど自意識過剰な性格だったのだろうか、考えてみると筆者も含め作曲家は自意識過剰な人間が多いのかもしれない。第3楽章の「アブルッチの山人が愛人に寄せるセレナード」は、民謡風で牧歌的な楽想でヴィオラの素朴な旋律が心を癒してくれる。札幌首席奏者廣狩亮の洪み

のある独奏が楽しみだ。**R. シュトラウス／交響的幻想曲「イタリアより」**  
交響詩作曲家としても有名なR. シュトラウスは、このジャンルの作品を二十歳代後半から三十歳代前半までのわずか10年ほどで書いていた。それ以後は、「ばらの騎士」などのオペラを精力的に作り続けた。交響的幻想曲「イタリアより」は、彼が交響詩の第1作「ドン・ファン」を作曲する以前につくられたもので弱冠22歳の時の作品だ。彼はその頃、指揮をしていたマイニンゲン宮廷楽団のヴァイオリン奏者アレクサンダー・リッターの影響でワーグナーやリストの音楽に触れ、絶対音楽から標題を持つ交響詩の世界に入るきっかけとなった。シュトラウスは、マイニンゲン宮廷楽団の指揮者を辞職した後、数ヶ月間イタリアで過ごした。イタリアの明朗な風土に強い印象を受け作曲されたこの曲は、若きシュトラウスのみならず、感覚が全楽章に溢れ、聴き手も心が浮き立ってしまうことだろう。第4楽章では、当時ナポリで流行していた「フニクリ・フニクラ」の旋律が第1主題として現れ親しみが持てる。あまり演奏機会が多い作品だが、雄渾なタクトでお馴染みの広上淳一が作曲家の青春を創出してくれることだろう。（写真提供協力／札幌交響楽団）



廣狩 亮 (©佐藤雅英)

広上 淳一 (©Greif Station)

# 札幌物語 58

## 札幌の50年を振り返る(3)

竹津 宜男 (札幌くらぶ会員)



昭和36年(1961年)頃の札幌は市内のまじった道路もまだ穴ぼこだらけで市内観光のバスに乗るとガイドさんが「札幌はえくぼで皆様を歓迎していません」と言っていた。市外は推して知るべしだった。

札幌交響楽団に入団する時、北海道に1つだけ生まれたオーケストラなので道内212市町村を回るのに忙しくて札幌でほんびりしている時間は少ないだろうと漠然と思つて来たのだが、創立当時は札幌市以外の公演依頼は極めて少なく団員の知り合いの關係の学校での音楽教室をすることから始まった。最初は9月に創立披露第1回定期演奏会をした翌10月に美唄南高等学校祭で副指揮者遠藤雅古の指揮でシューベルトの「未完成交響曲」などを演奏、その10日後に栗山町「秋の音楽祭」で同じプログラムを持つて行った。

札幌しか知らなかった私の目にはこの農村がとても新鮮に映つた。私だけではなかったようで行きの車内は比較的静か

だったが帰りは札幌へ着くまで栗山の話しで盛り上がりとてもぎやかだった。年が明けて3月には千歳市立第3小学校へ音楽教室で行った。創立初年度の市外公演はこの程度だった。もつと道内に札幌を知ってもらつて市外公演を増やすには新聞に広告を載せるか各地を訪れてセールスしなければならなかった。

札幌は、創立記念演奏会こそ大きく新聞紙上で取り上げられたがそれ以降は余り話題にされなかった。次に大きく取り上げられる機会は姉妹都市提携だった。札幌市は昭和34年(59年)にアメリカのポートランド・オレゴン市と初めての姉妹都市提携を結んだ。このポートランド・オレゴンには全米で最も優れたジュニア・オーケストラがある。姉妹都市の調印式にポートランドを訪れた札幌市長、故原田与作はこのジュニア・オーケストラの演奏を聴かされた。

ポートランドを離れる時「札幌に伺つた時はぜひ御地のオーケストラを聴かせて下さい」とシユランク・ポートランド市長に言われて

帰つて来た。

昭和33年(58年)に札幌市民会館(2007年3月閉館)が落成、地元の財界人も文化人もプロ・オーケストラの誕生を期待する機運が盛り上がったのだ。しかし、札幌市もその気になつて早々と昭和36年(61年)に札幌が誕生したのはシユランク市長のこの一言が大きな引き金になつたと言われている。そのシユランク市長が昭和37年(62年)4月に来札幌した。パークホテルのホール「まりも」(現在・光華)での歓迎パーティには原田市長はシユランク市長との約束どおり札幌の演奏を披露した。札幌交響楽団が写真入りで新聞に大きく取り上げられ紹介された。

昭和36年には帯広市民会館が落成し10月にNHK交響楽団による落成記念コンサートが行われることになっていた。N響は札幌で演奏して翌日が帯広への移動日だった。帯広へ移動する日の昼頃、知人の団員から電話が掛かって来た。「国鉄で移動する予定だったが狩勝峠が大雨で鉄道の道床が削られ

て線路が宙ぶらりんになったそうだよ」とのことだった。その日札幌は休みの日だったのでN響が泊まっていた札幌駅近くの旅館へ出かけて行った。間もなく「バスで行くことになった」と連絡が入った。分かれてと帰宅したらまた電話が掛かって来た。

狩勝峠は国道も流されてバスも行けなくなった、とのこと。一緒に食事をしようとして再び旅館へ出かけたがその頃、札幌にも大雨が降り始めていた。食事をして旅館へ帰つて来たら「札幌の廻りの道路が水に漬かつて札幌へ閉じ込められたようです」と言う。結局全員が札幌へ3泊して道路の復旧を待つて東京へ帰つた。そのN響に替わつて誕生したばかりの札幌が翌年帯広市民会館のこけら落としに出演する機会に恵まれた。

この年、群馬県高崎市の「音楽センター」で群馬交響楽団、京都市交響楽団と共に芸術祭三市交響楽団演奏会に出演、また大きく新聞に取り上げられ新聞に大きく載つて話題になった。これを機会に北海道内にも札幌の名が少しづつ知られるようになりまじった都市での公演が出来るようになってきた。

### 札幌フィルハーモニー管弦楽団

## 「第47回定期演奏会」を聴いて

5月27日(日) 札幌市民会館

「音楽」は「音を楽しむ」と書きます。アマチュア・オーケストラの真骨頂はまさに楽しんで演奏すること、聴衆は演奏者の楽しそうな様子に感動することなのだ。5月27日札幌フィルハーモニー管弦楽団の定期演奏会は改めてそのことを教えてくれました。

40年の歴史を持つ札幌市民オーケストラ「札幌フィルハーモニー管弦楽団」65名のメンバーは、年齢層の広がり職種幅に裏打ちされて、実に楽しい演奏を繰り広げてくれました。指揮は札幌交響楽団ファゴット首席奏者の坂口聡さん、大きな体をより大きく使つて、明快で分かりやすい指揮は気持ちのよい雰囲気醸成していただきました。プログラムは、まず、元氣流刺の演奏でドボルザークの序曲「謝肉祭」からスタート、そして前半のハイライトは「ドボコン」で親しまれるドボルザーク「チゴ協奏曲」短調で、札幌交響楽団チゴ首席奏者の石川祐支さんの巧演と、札幌フィルの熱演が見事に調和して、感動の拍手が場内を大きく包みました。休憩後のメイン・プログラムはベートーベンの交響曲第3番「英雄」です。半世紀も昔の学生時代、フルトヴェンゲラー&ウィーンフィルの「エロイカ」のLPレコードを買って、何度も繰り返して聴いたことを思い出していました。楽器配置も「フルヴェンスタイル」ともいわれる、弦楽器対向配置(指揮者を挟んで第一ヴァイオリンが左、第二ヴァイオリンが右に陣取り、ピオラは第二ヴァイオリンの左に、チェロが第一ヴァイオリンの右隣りでコントラバスが左側奥)となつていて、通常見慣れたチェロ・コントラバスの配置とははつきり異なります。札幌フィルの「英雄」は、ソロで目立つオーボエも、聴かせどころの多いホルンも、それぞれしっかり演奏されていて、限りなく勇壮で感動的な「エロイカ」を聴かせていただきました。

熱演が終り、鳴りやまない拍手に答えてのアンコール演奏は「英雄」第四楽章に登場する「プロメテウス変奏曲」のオリジナル「歌劇プロメテウス王」序曲でした。定期演奏会成功裏にやり遂げた全団員の充実感・満足感と同時に、札幌と札幌フィルとの日常的に緊密な信頼関係も伝わって、和やかに楽しい演奏会となりました。(鷲頭 隆)

# 「札幌市内中学校吹奏楽部札幌定期演奏会招待事業」始まる 宮の森中学校からの手紙

財団法人札幌市職員福利厚生会協賛事業

平成24年度の新規事業となる札幌市内中学校吹奏楽部札幌定期演奏会招待事業が4月27日の548回札幌交響楽団定期演奏会B日程から始まりました。この事業は、第9回札幌くらぶコンサートで吹奏楽部等に所属し、音楽活動をしている中学生・高校生、留学生などを招待した実績をもとに、財団法人札幌市職員福利厚生会の協賛事業として市内中学校吹奏楽の生徒を招待し、演奏技術の向上と、将来の札幌のリスナーを育成しようとするものです。

4月の定演には、琴似中学校、宮の森中学校、中島中学校の3校計100名を招待しました。その中の宮の森中学校の生徒の皆さんからお礼のお手紙をいただきましたので、その一部を紹介いたします。お手紙は、いただいた全て全文を掲載したいのですが、紙面の制約もありますので、一部とさせていただきます。掲載したお手紙も「前文」「末文」「後付」を削るなどの修正をさせていただきます。掲載できなかったお手紙は、いつか掲載したいと思っています。（定政、中居）

私はオーケストラを生演奏で初めて聴きました。

「新世界」のイングリッシュホルン、すっごいカッコよくて感動しました。私だったら、あんなに長いソロ（？）できる気がしません。いつか、あんな雰囲気の中で、ソロがふけるように上手になりたいと思います。

CDでは味わえないオーケストラの良さに感動しました。私は打楽器なのですが、バスドラ、ティンパニ、シンバルなどの打楽器の音色が全体にとってもなっていて、自分はまだまだ練習

と思います。私は感動して泣いてしまいました。

ラドミル・エリシユカさんを始めとする素晴らしい皆さんの演奏に感動しました。曲目の中に私達も知っている「新世界より」が入っておりましたが、とても迫力ある演奏で笑顔が絶えませんでした。

普段あまり目にするのではない弦楽器の方々も沢山いて「こんなに多くの人で演奏すれば、こんなにきれいでできるんだ」と思いました。私自身、どこかの楽団の定期演奏会を見に行くことはあまりなかったのですが、今回この演奏を聴いて、もっと聴いてみたいと思いました。

今回演奏された「新世界」はもともと知っていましたが、生で聴いたのは初めてでとても迫力があつてすごかったです。自分の担当の楽器の演奏を聴いたりして、とても勉強になりました。それを聴くのも見るのも楽しかったです。

特に印象に残ったのは、音がなくなっても指揮棒が下ろされるまでは、曲がまだ続いているような緊張感があつたことです。音がなくなっても無音の曲のようで、どんな小さな音も出せないように固まってしまうました。

本場にすべての楽器の音がきれて、ゆっくりとした曲の時は、目を閉じてその曲に入ってしまった。

そして「新世界」は、あの誰でも知っているメロディーも、力強く表現されていて、今まで何回も聴いたけれど、今回の演奏が一番心に響きました。

イングリッシュホルンやフルート、クラリネット、ホルン、それぞれの音が互いに支えあつてできるひとつの交響曲。アームストロング船長が月面着陸している様子を船内で見守っている船員、着陸した船長の喜びを一緒に味わっている気分が聴いていました。

また、12月にはパトリオダー講習会でお世話になりました。こんな素晴らしい演奏をする皆様に教えていただいたのだと思うと、とても大それたことをしてしまつた気持ちです。しっかりと新一年生にも伝えていきます。

ホールでの弦楽五重奏はとても素晴しかったです。特にソナタ舞曲5番にはとても感動しました。公演では、木管楽器の音のキラがかったよかったです。ヴァイオリンの手の動きにはついていけませんでした。

なかでも一番印象に残ったのはホルンです。大人気で演奏していたためホルンの音は消えてしまつてもおかしくないはずなのに、演奏中ホルンの音はホール中に響き渡っていて、とても存在感があり、プロのホルン奏者はすごい、とあらためて感じさせていただきました。

オーケストラと吹奏楽では、違うところもたくさんありますが、演奏者の姿勢や熱意に深く感銘を受けました。自分の中の音楽が広がったように感じました。

札幌の演奏は、観客一人ひとり勇気づけ、感動させてください。私は音楽が楽しい、と思ひ、あのとときの気持ちを忘れず、日々の練習により力を入れていきます。

トランペットはやっぱりカッコよかったです！曲が終わつたとき、私は手が痛くなるほど拍手しました。いつか私も、お客さんにたくさん拍手をもらえるようになりたいです。

札幌の定期演奏会は大人の方々が行くというイメージが、私にはとても強いです。けれども、このように中学生を招待していただけたら、私自身、今後行きたくなくなりましたし、行きやすくなりました。

新世界では、一つ一つの楽器がおどつていて、見ていて感動しました。どの曲も一人一人の表情が場面によって変わっていくところを見て、技術だけではなく、表情も大切だと思いました。

どの曲も、とても素晴しかったです。特に「新世界より」がとても印象に残っています。プログラムに書かれていた物語を考えながら聴いていると、とてもおもしろかったです。

今回の演奏会で、楽器の本当の音色を知ることができました。この本当の音色が一つになったとき、初めて「演奏」になるのだと思ひました。「音色」それは文字とおり「音色」を感じさせる演奏会でした。私は、楽器本来の音を精一杯生かせるような演奏ができるよう、日々努力していきたいです。

今回の演奏会では、私はステイジの後ろに座らせていただいたので、自分の楽器であるフルートの演奏を、とても身近で見学できて勉強になりました。また、フルート奏者の音色の素晴らしさに感動しました。そして私もこのような音色になりたい、と思ひ、これからの練習の原動力になりました。

7

# スタッフの活動報告(平成24年4月～6月)

## ●財団法人札幌市職員福利厚生会

4月3日(火)

担当/佐藤運営スタッフ

札幌市職員福利厚生会事務局日下調整担当課長の異動に伴う中学生札幌定演招待について、4月実施の打ち合わせを行う。

## ●宮の森、琴似、伏見各中学校

4月5～6日

各中学校吹奏楽部担当教諭

担当/佐藤運営スタッフ

中学校吹奏楽部札幌定期招待事業の実施について、4月招待の協力要請及び人数取りまとめの確認を行う。

## ●会報「札幌くらぶ」第58号発行

4月25日(水)

札幌コンサートホール2階大会議室

担当/木村運営スタッフ他7名  
高関正指揮者退任、24年度総会案内、シンボルマーク決定など17件の記事を8ページに亘って掲載、1ページ目をカラー印刷、800部発行し、約650部を会員、音楽関係者、報道機関に発送する。

## ●第1回札幌くらぶ運営会議開催

4月25日(水)

担当/武藤事務局長他10名

24年度総会議案の審議、中学校吹奏楽部札幌定期招待事業の4月招待及び見通しを説明、JOFCC札幌総会二次会会場について協議する。

●平成24年度札幌くらぶ総会開催  
5月26日(土)  
札幌コンサートホール2階大会議室  
会員32名出席、委任状96名  
平成23年度活動報告、平成23年度普通会計及び特別会計決算報告、会計監査報告、平成24年度活動計画、平成24年度普通会計予算案を提案、交流会の会場について質疑のあと原案通り承認され、役員改選については会計監査の2名が新選されたほかは全員留任、運営スタッフ2名が新たに指名される。

●札幌市内中学校吹奏楽部札幌定期演奏会招待事業  
4月28日(土)  
担当/佐藤運営スタッフ  
札幌市職員福利厚生会協賛事業として、琴似、宮の森、中島各中学校計100名を招待する。送迎バスは(株)そよかせ観光が担当した。

●会報に関する札幌との打ち合わせ  
5月15日(火)  
担当/武藤事務局長ほか2名  
会報の編集に関して、記事の内容に関する要望を受け、編集体制の強化を検討することとする。

●会長に対する総会議案説明  
5月21日(月)  
担当/武藤事務局長ほか2名  
札幌市市長室  
平成24年度札幌くらぶ総会議案、役員改選、会報編集体制、キタラ会議室使用について説明をする。

●第2回札幌くらぶ運営会議開催  
5月24日(木)  
担当/武藤事務局長ほか7名  
平成24年度総会及び交流会の業務分担、会報編集体制について協議する。

●札幌&札幌くらぶ交流会開催  
5月26日(土)  
札幌北ホテルB1F KITTA HALL  
会員、楽団員合せて40名ほど出席した。また、新入会3名、運営スタッフ2名が新たに加わった。

●札幌市内中学校吹奏楽部札幌定期演奏会招待事業  
6月23日(土)  
担当/佐藤運営スタッフ  
札幌市職員福利厚生会協賛事業として、藻岩、西岡北、中の島中学校計75名を招待する。送迎バスは(株)そよかせ観光が担当した。

## 平成24年度の年会費の納入をお願いします

平成24年度の「年会費の納入のお願い」と郵便振替用紙を6月上旬、銀行等の口座振替をご利用されておられない会員の方々にを送りいたしました。

年会費は、札幌くらぶの運営経費と楽譜支援金にあてられております。またお振り込みされておない方は、お近くの郵便局からお早めにお振り込みをお願いいたします。

また、年会費納入の際に、任意での追加楽譜支援金も併せて募集しておりますので、ご検討をよろしくお願いいたします。

年会費の納入は、日ごろご利用しております金融機関の預金口座からの自動振替が便利です。追加

楽譜支援金、札幌くらぶコンサートチケット代や各種イベント参加費などのお支払いも口座振替でできますので、ぜひご利用ください。

手続きをご希望の方は、電話・ファックス/

〇一五六三六四六〇  
メール/info@sakkyoclub.net  
で、会員番号、お名前を申し出てお申込みください。口座振替依頼書をお送りいたします。

上記のほかに、定期演奏会、名曲シリーズの会場の「札幌くらぶサービスカウンター」で、現金でのお支払いも受け付けておりますので、お気軽にお申し付けください。

(担当/事務局長 武藤義典)

## 編集後記

◆4月の札幌定期演奏会に招待した宮の森中学校吹奏楽部の生徒33名から、お礼と感謝の手紙が届いたのは感動しました。若い人たちが札幌の演奏を聴いてこのように喜んでくださると、活動にも一層力が入ります。(里)

◆宮の森中の生徒さんからの心こもったお礼の手紙。全部そのまま掲載しなかったのですが、紙面の都合で削ることに。さすが吹奏楽部だけあって鑑賞の視点が素晴らしい。この中に将来の札幌のメンバーがいるかも!(定)

◆平成24年度札幌くらぶ総会が開催されました。今回、初めて議事録を外注(テープ起こし)して作成しました。会議時間は1時間15分と短かったのですが、全ての発言を記録する全文筆記方式で19ページとなる膨大なものになりました。それをもとに会報の総会報告の原稿を作成したので、これも2ページとちよつと、交流会を含めると3ページの量になりました。

総会の内容と雰囲気皆様様に伝わると幸いです。(武)

## 平成23年度も楽譜支援金贈る

楽譜支援金制度は、6年目を迎えた平成23年度も50万円を札幌交響楽団に贈りました。原資は、皆さんから寄せられた513,900円(会費171,500円、追加支援金342,400円(146名)です。ご協力ありがとうございました。楽譜支援金で購入された楽譜は、次のとおりです。

平成23年度札幌くらぶ楽譜支援金購入内訳

作曲者	曲名	計
ドヴォルザーク	スケルツォ・カプリチオーソ	26,250
ドヴォルザーク	野鳩	24,549
ドヴォルザーク	交響曲第9番	49,980
ドビュッシー	映像よりイペリア	54,884
R.シュトラウス	イタリヤから	53,550
エルガー	交響曲第1番	67,379
シベリウス	交響曲第3番	29,673
ディーリアス	2つの小品	5,985
ラヴェル	マ・メール・ロワ組曲版	19,635
ラロ	スペイン交響曲新版	38,850
ニールセン	クラリネット協奏曲	54,600
エルガー	南国にて	38,598
ビゼー	カルメン第1組曲	14,942
ドビュッシー	スラウ狂詩曲 op14-3	25,200
計		504,075